



2023・7・13

No.6

スエTの科学の時間



7月7日（金）の七夕の日に、2回目のスエTの科学の時間がありました。今回のテーマは、「水とは何だろう？」でした。今年度はちゃっぴんを通していろいろなあそびを楽しんでいてその中で、水についての絵本を見たりしていたので、興味津々でした。

まずは、温度計で水の温度を計ってみました。「何度くらいだと思う？」という問いに、「50度くらい！」と答える子どももいました。水を冷やすと氷になることはよくわかっていた子どもたち。氷の温度は、0度くらいと聞いてびっくりした様子でした。そこで、1つ目の実験タイム！



お皿の上にグラスを置き、グラスいっぱいの氷を入れて、そこに水を注ぎました。「少しおいておくとグラスはどう変わるのか」という実験です。

時間がかかるので少しおいて、2つ目の実験をしました。「水を温めるとどうなるか」という実験で、ポットでお湯



を沸かし、ポットの窓から水の変化を観察しました。しばらく見ていると、ポコポコと泡が出てきてお湯がブクブクと沸騰する様子が見え、その様子を体で表現していた子どもたちでした。「水蒸気」という言葉も知っていたようで、湯気を見て「水蒸気やろ！

知ってるで」と得意げでした。空気の中には、目に見えないほどの小さな粒がぷかぷかして、湯気は、水の粒が冷えて白く目に見えるようになっているということを知り、「へ〜」と空を見上げていました。



1つ目の実験のグラスを見てみると、グラスに水滴がたくさんついていて「この水はどこから来たの？」とみんなで考えました。空気中の水の粒が冷えてどんどん集まってきてグラスにくっついているんだよと教えてもらい、不思議そうにしている子どもたちでした。

終わってからも、氷水のグラスに夢中の子どももいて、さらに氷を入れて水をぎりぎりまで入れておくと、氷が溶けたらあふれるのか実験もさせてもらいました。給食後につどい、みんな

で見ると、グラスの水は少し減りグラスの下のお皿にはたっぷり水が溜まっていました。「グラスの中の水があふれたんじゃない？」「グラスに水がついてないから、お皿の水は水滴だよ」と自分なりに考えていた子どもたちでした。いろいろなときめき・ひらめき・発見のあった時間となりました。

